

蒲生干潟の地形調査③〇

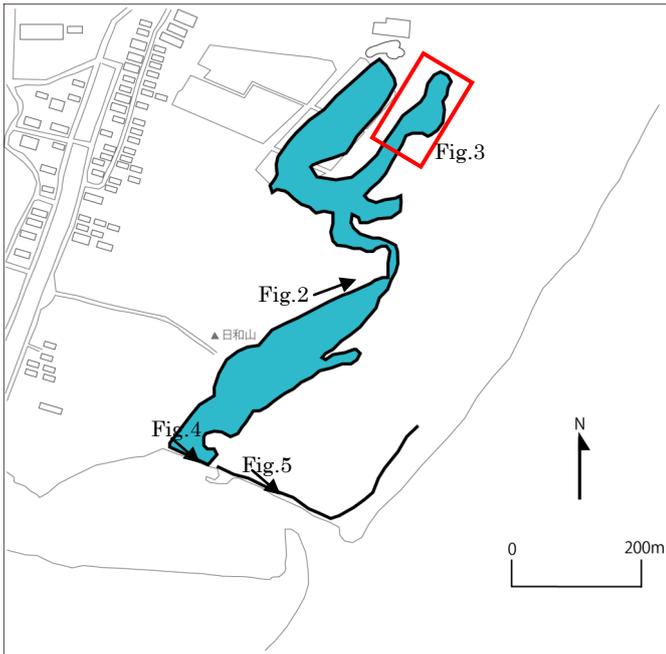


Fig.1 GPSによる簡易測量結果



Fig.3 氷が張っていた潟湖北側



Fig.4 中央通水部分のようす（西側より撮影）



Fig.2 潟湖中央部付近（南側より撮影）



Fig.5 河口付近のようす（西側より撮影）

調査日 2018年1月5日（金）9：30～11：30 ※干潮時刻11：37（潮位85cm）

Fig.1で実線で示された部分はGPS簡易測量による1月の汀線である。干潮時間帯の調査にもかかわらず潟湖の水位は満潮時間帯に調査した12月の水位より全体的に高く、12月の調査で大きく分断されていた潟湖の中央部分はかろうじて一つにつながっていた（Fig.2）。Fig.1の□で囲まれた潟湖北側付近は2mm程度の厚さの氷が一面に張っていた（Fig.3）が、潟湖中央部から南側は凍っていないかった。また潟湖は全体的に水の透明度が高かった。3箇所ある導流堤通水部分では西側および中央ではわずかに水が確認できたが（Fig.4）、通水していたのは東側のみであり、潟湖から川へ水が流れ出していた。河口付近では右岸の侵食は西側（川側）東側（海側）ともに進んでおり砂州は縮小しており、河口は大きく開いていた（Fig.5）。海岸線は12月の調査に引き続き傾斜がなだらかであった。

（中田 晋）